

2017年ユーロバイク展報告

(一財)自転車産業振興協会(自振協)は、日本の自転車関連産業の貿易促進のため、日本企業の国際自転車展示会への出展支援を行っている。2017年8月末から9月初めにかけて開催された欧州最大の自転車展示会ユーロバイク展にも、自振協による共同出展ブースを設け日本企業8社の出展を支援した。同展の概要を報告する。

1. 展示会概要

本年、第26回目となる自転車展示会、2017年ユーロバイク展(EUROBIKE2017)は、ドイツのフリードリッヒスハーフェン見本市会場にて、2017年8月30日(水)~9月2日(土)の4日間、開催された。初日は好天であったが会期2~4日目は雨天となり、本年は天候に恵まれなかった。ビジネス関係の来場者数は前年比0.3%減の42,590人と僅かに減少し、来場者は3年続けて減少となったが、出展社数は前年より増え1,400社であった。また、会期中は1,654人(前年1,766人)の取材陣が訪れた。昨年は2日間設けられた一般公開日「Festival Days」は、本年は1日間のみとなったが、雨天にもかかわらず22,160人の一般来場者が詰めかけた。



会場の様子(左:ホールA1、右:ホールB1)

主催: メッセ・フリードリッヒスハーフェン有限会社

開催地: ドイツ・フリードリッヒスハーフェン見本市会場

会期: 2017年8月30日(水)~9月2日(土)

(8/30-9/1 ビジネスデー、9/2 一般公開)

展示会場及び面積: 14ホール、100,000㎡(昨年同様 ※A3,A4仮設、屋外分は除く)

入場者数: ビジネス来場者 101カ国42,590人(昨年106カ国42,720人)

一般来場者 22,160人(昨年34,400人)

出展社数： 50 カ国 1,400 社（昨年 1,350 社）

2. 主役は E-MTB

本年のユーロバイク展も、電動アシスト自転車(EPAC)等とその関連部品が同展の展示品の目玉であった。同展オフィシャルカタログによると、2017年のPedelecs(EPAC)出展者数は前年比21%増の132社となり、更にEPACよりも補助速度やモータ出力の高いS-Pedelecsは前年より5倍増の133社に急増したが、出展者リストをみるとPedelecs出展者とS-Pedelecsの出展者はほぼ重複している。

なお、例年通りホールA5には、現在、欧州市場で電動ドライブユニットのトップシェアを有するとみられるボッシュ(BOSCH)を筆頭に、Brose、Panasonic、Bafang及びTranzX等の多くの出展ブースが集まっていた。この他B5ホールではシマノ(STEPS)、また当協会ブースのヤマハ等も加わり、欧州市場における電動ドライブユニットの市場競争は現在も続いている。

図表1: Pedelecs(電動アシスト自転車)等の出展者数推移 (単位:社)

出展車種	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
E-bikes	30	47	76	110	101	156	158	176	195	-	-
Pedelecs	15	23	30	52	55	88	82	83	84	109	132
S-Pedelecs										23	133

※2016年より「Pedelecs」と「S-Pedelecs」に分類変更

EPACの車種別で見ると、MTBタイプのEPAC(E-MTB)の出展者数は前年より倍増の87社を数えた。各ブースでは新商品のE-MTBが多く見られ、EPACの中でもE-MTBが主役の状態となり、今、欧州市場で最も注目が高い車種といえる。なお、従来のE-MTBはバッテリーを下パイプ上の外部に装着するのが一般的で、一見して電動自転車と分かるものが多かったが、最近では下パイプ内部にバッテリーを収納したフレームが各社のハイエンドモデルのE-MTBを中心に急増している。バッテリー収納タイプのフレームは、他社と差別化を図るデザイン上の特徴であるだけでなく、バッテリーの大型化や容量増を目指す一面もあると思われる。更にこのフレームスタイルはシティ車・トレッキング車タイプの電動自転車にも広がりを見せており、現在は各社のハイエンドモデルを中心に増加しているが、今後のEPAC全般の主流となるかもしれない。



従来のバッテリー位置の E-MTB



バッテリー収納フレームの E-MTB が急増

(左上：シンプロン、右上：スコット、左下；クライドラー、右下：カルクホフ)

近年の E-MTB の過熱ぶりを見て、今まで電動自転車に見向きもしなかった高級スポーツ車ブランドも電動自転車市場に参入を始めている。リドレー、BMC 等は E-MTB を出展し、本展には不参加であったピナレロも E-MTB の新商品を立ち上げた。

更に E-MTB に次ぐ電動自転車として、ロードバイクの電動車 (E-ロードバイク)、車輪径

24 インチのジュニア E-MTB 及び運搬用のカーゴ E バイク等も見られ、E-MTB に次ぐ新たな電動自転車を探る動きも見られ、欧州市場の電動自転車ブームは当分続きそうな勢いである。



高級スポーツ車ブランドも E-MTB に参入（左：BMC、右：リドレー）



E-ロードバイクは新たなトレンドとなるか（左：KTM、右：MATRA）

3. 落ち着いた色へ

今年も派手なネオンカラー（蛍光色）の商品が多く見られた一方で、電動自転車をはじめ MTB やロードバイク等のスポーツ車でも艶消し黒やグレー系のフレームカラーも目についた。ハンドルバー/ステム、ギヤクランク、シートポスト及び車輪等の各部品も総じて黒色が多く、更にはブランド名等のロゴ自体も黒色が主となり、全般的に落ちついたカラーリングの自転車が増えている。特に独市場では街乗り用のシティ車やトレッキング車において黒のフレームカラーは消費者の人気が高く、小売店の店頭でも多く見られるが、この艶消し黒やグレーのフレームカラーが蛍光色の次のトレンドとして、MTB やロードバイク等の高価格帯のスポーツ車に更に広がるのか注目したい。



グレー系のスポーツ車（左上：メリダ、右上 BH Bikes, 左下；STEVENS、右下：CONWAY）

また、ここ数年間、注目を集めてきたファットバイクはかつての勢いを失いつつあり、数年前のシングルギヤ車と同様、一過性のブームで終わってしまう可能性が感じられた。なお、まだまだ少数ではあるが、一部のスポーツ車ブランドのブースでは、長距離走行に適した装備のツーリング車を展示するところも見られ、電動自転車以外の一般の自転車でも新たな車種を模索する様子もみられた。



ツーリング車（左：KOGA, 右：メリダ）

4. JBPI 共同出展ブース

本年 15 回目の出展となる自転車産業振興協会 (JBPI) ブースは、昨年より展示ホールを A1 に移し、小間面積は昨年同様、80 m²であった。今回は下記図表のとおり、(株)三ヶ島製作所 (MKS)、(株)ヨシガイ (DIA-COMPE)、(株)本所工研 (HONJO)、(株)ASK TRADING (BOMA)、日工産業(株) (NIKKO SANGYO)、(株)プロキダイ (PROKIDAI)、アウトータップ(株) (OUTERTOP) 及びヤマハ発動機(株) (YAMAHA) の合計 8 社の日本企業が共同出展した。

JBPI ブースの位置する A1 ホールは、見本市会場の表玄関である西入口に面して利便性の高い場所に位置しており、特に本年は台湾企業群のほか、アジア系出展者が多く集まるホールとなった。当ブースは、ペダル、ギヤクランク、ハンドルバー、ステム、ブレーキ、泥よけ及びフレームのラグ等を出展し、日本の高品質な自転車部品・付属品等が集まる「JAPAN」ブースとして来場者に広く認知されている。更に本年は PROKIDAI が心拍計測機器、OUTERTOP がブラケットフードの新商品を展示する等、当ブースの日本製品は来場者の注目を集め、各共同出展者の小間では活発な商談等も行われた。



JBPI 共同出展ブースの様子

図表 2 : 2017 年ユーロバイク展共同出展企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所 U R L	電 話 F A X	主な出品物
(株)三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 所沢市糀谷 1738 http://www.mkspedal.com	04-2948-1261 04-2948-1265	ペダル
(株)ヨシガイ DIA-COMPE	〒571-0008 門真市東江端町 7-25 http://www.diacompe.co.jp	072-884-8020 072-884-8030	ヘッドセット、 ブレーキ等
(株)本所工研 HONJO	〒130-0003 東京都墨田区横川 2-19-10	03-3625-2431 03-3625-2433	泥よけ
(株)ASK TRADING BOMA	〒314-0018 三郷市早稲田 4-10-2 http://www.boma.jp	048-951-5820 048-951-5821	自転車、フレーム等
日工産業(株) NIKKO SANGYO	〒125-0063 東京都葛飾区白鳥 4-14-23 http://www.nikko-bulgeform.co.jp	03-3601-4166 03-3690-7616	フレームラグ

(株)プロキダイ AIRFIT/PROKIDAI	〒619-0289 京都府相楽郡精華町光台 3-5 コミュニケーション研究所オープンラボ 1L http://www.prokidai.co.jp	0774-66-5224 0774-66-5223	心拍計測機器
アウトートップ(株) SHAKES	〒106-0031 東京都港区西麻布 3-3-3 http://www.shakes.tokyo	03-6459-2828 03-6459-2524	ブラケットフード
ヤマハ発動機(株) YAMAHA	〒438-8501 磐田市新貝 2500 http://global.yamaha-motor.com/business/e-bike-systems/	0538-32-1963 0538-37-4475	EPAC ユニットドライブ

5. 変遷する出展企業と会期の変更

本年は台湾の最大手メーカーのジャイアント、キャノンデールや GT のブランドを要する米国の CSG、チェコ共和国のスポーツ車ブランド・オーサー、ドイツの高級スポーツ車ブランド・キャニオン及び米国 MTB メーカーのサンタ・クルーズ等の有力スポーツ車ブランドが出展を取りやめた。また、欧州最大の購買力と言われるドイツの二輪車共同購入組合 (ZEG) も出展を取止めたため、同社スポーツ車ブランドのブルズ、ケトラーとヘラクレスの両独ブランド、更に最近買収したスイスの電動自転車ブランド・フライヤー等が一気に会場から姿を消した。また、目下、再建手続き中の独量販向け大手メーカー・MIFA 傘下のステッペンウルフと GRACE も出展していなかった。一方で昨年出展しなかった PON BIKE に属するドイツ大手メーカーのダービーサイクル (ラレー、ユニベガ及びカルクホフ) は復活したものの、ドイツで開催される自転車展において、同国の有力完成車ブランドの出展社数が年々減少していくことは誠に残念である。

ここ数年、大手の完成車メーカーやブランドの撤退が続いているが、現在は新規参加希望者によってその穴を埋められたのか、全体の出展者数が減少することはなかった。しかしながら、来年度は後述のとおり会期を 7 月上旬に変更するため、この判断により出展者数はどうなるのか現状では不透明である。この変更は大手メーカー等が出展を取りやめ、独自の内覧会や商談会を開催する傾向が強まる中、その対抗策として時期を早めたとも考えられる。ほぼ 2 か月近く会期が早まることにより、各社の新商品準備のスケジュールにも影響を及ぼすことが想像される。更に来年は台湾の台北ショーが 10 月末に移行し、欧州、米国及びアジアの 3 つの大きな展示会が連続して開催される形となり、出展企業にとっては負担が増す可能性もある。

なお、次回 EUROBIKE2018 は 2018 年 7 月 8 日 (日)～10 日 (火) の 3 日間に開催されることが展示会事務局から発表された。従来のユーロバイク展はビジネスデー 3 日間に一般公開 1 日の計 4 日間であったが、来年はビジネスデー 3 日間のみとなることも公表されており、この決定は多くの出展者社から歓迎されると思われる。しかし、日曜日に展示会が始まり火曜日に終わる会期は、従来、週末に向けて開かれることが多い展示会期の中で、この曜日設定がどのような効果を見込んでいるのか分かりにくい。因みに 7 月上旬は、現地ポーデン湖周辺は観光シーズであるため、現状でも宿泊先の手配に難儀している状態であり、新しい会期でもその状況が改善される見込みは薄いとみられる。また、今年は会期中雨天に見舞われ、特に夕刻の帰路に見本会場周辺はひどい交通渋滞が生じた。毎年言われていることだが、宿泊

や交通手段の改善が是非とも望まれる。

以 上

※写真はすべて筆者撮影（同展取材登録済）